

令和7年産てん菜の生産状況について

北海道農政部生産振興局農産振興課

【要約】

令和7年産てん菜の作付面積は、4万7965ヘクタール（前年比1.8%減）と前年から882ヘクタール減少した。10アール当たり収量は、過去最高であった前年と比較すると減少したが、おおむね^{かつばんびょう}平年並みの6660キログラム（同6.6%減）となり、生産量は319万4633トンとなった。糖分は、高温や褐斑病の影響などにより平年を下回る15.6%、歩留まりは15.4%となり、てん菜糖生産量は49万907トン（同9.1%減）となった。

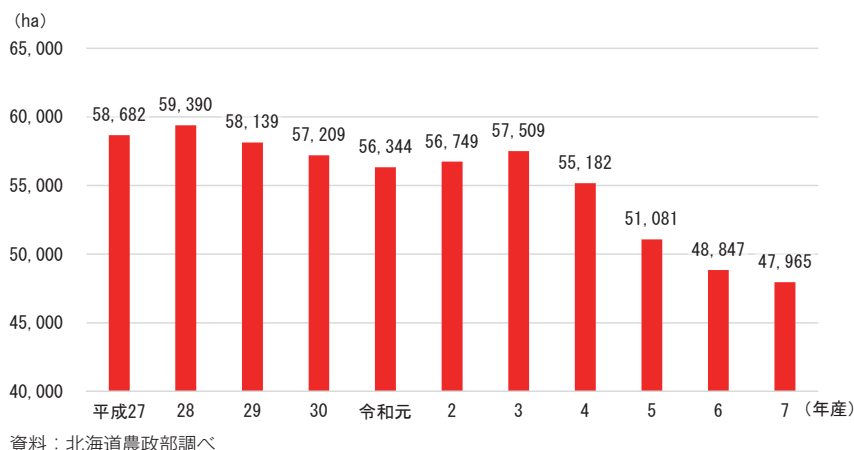
はじめに

てん菜は、北海道の畑作経営の輪作体系を維持する上で基幹的な作物の一つであるとともに、てん菜糖を製造する製糖工場は地域経済の維持・発展に重要な役割を担っている。

一方、てん菜は他の輪作作物の小麦や豆類と比べ、単位面積当たりの労働時間が長く、近年、農業従事者の減少や高齢化の進行、経営規模の拡大に伴う労働力不足などにより、作付面積は減少傾向で推移し

てきた。また、砂糖の消費量の減少や糖価調整制度の調整金収支の累積赤字が増大していることを踏まえ、令和4年12月に農林水産省が、てん菜糖の国内産糖交付金の交付対象数量を令和8砂糖年度（令和8年10月～翌年9月）までに段階的に削減する方針を決定したことなどを背景として、他品目への転換が加速し、令和7年産の作付面積は、前年から882ヘクタール減少し、4万7965ヘクタール（前年比1.8%減）となった（図1）。

図1 てん菜の作付面積の推移（平成27年産以降）



1 令和7年産てん菜の生育概況

春先は気温が低く降水量が多かったため、移植作業や直播栽培の播種作業は平年より遅れた。5月中旬以降は高温傾向で推移し降水量も十分であったため、7月初旬までには作業の遅れは解消した。平年を上回る高温傾向は、9月上旬まで続き、褐斑病の初発も前年並みに早かったが、防除を徹底したことや、平年と比べ少雨傾向であったことにより、発

病の進展は抑えられた。なお、収穫期直前の生育は、直播栽培は少雨の影響もあり、平年よりわずかに遅れたが、根周は移植栽培・直播栽培ともに平年並みだった（表1）。

その他の病害虫については、根腐病やそう根病、黄化病の発生は少なかったが、ヨトウガの発生は平年より早く、シロオビノメイガやシロイチモジヨトウの発生も確認され、被害面積は平年より多かった。

表1 生育遅速の推移（令和7年産）

（単位：日）

地域	区分	5月15日	6月15日	7月15日	8月15日	9月15日	10月15日
全道	移植	遅1	±0	早2	早3	早2	早2
	直播	遅4	遅1	±0	±0	遅2	遅1
	上川	移植	遅1	±0	早1	±0	±0
		直播	遅4	早1	早1	遅2	遅2
	オホーツク	移植	±0	±0	早2	早2	早2
		直播	遅3	遅1	±0	遅1	±0
	十勝	移植	遅2	±0	早1	早4	早2
		直播	遅5	遅2	遅1	±0	遅2

資料：北海道農政部調べ

注：遅速日数は平年の生育状況に対する遅速の日数。

2 令和7年産てん菜の生産状況

10アール当たり収量は、夏季の高温と周期的な降雨によりおおむね平年並みに根部の肥大を確保できたが、過去最高であった前年からは474キログラム減少し6660キログラム（前年比6.6%減）となり、てん菜の生産量は、作付面積の減少も影響し、前年より29万194トン減少し319万4633トン（同8.3%減）となった。

根中糖分については、9月上旬まで高温傾向が続いたことなどにより15.6%と平年（16.2%）を下回り、前年産よりも0.1ポイント低下した（表2、図2）。

品種別の作付け構成は、「カーベ2K314」（24.6%）、「パピリカ」（20.1%）、「プロテウス」

（18.4%）の順となっている（表3）。

「カーベ2K314」は、褐斑病やそう根病の抵抗性が優れており、「パピリカ」は、そう根病抵抗性に優れ、根重が多く、令和5年に優良品種に認定された「プロテウス」は、褐斑病と根腐病抵抗性に優れていることから、作付け割合が高くなっている。

てん菜の作付け戸数は全道的に減少傾向が続いており、令和7年は5797戸（前年比2.9%減）と、前年より176戸減少し、10年前（7351戸）と比較して1554戸減少した（平成17年比21.1%減）。1戸当たりの作付面積は8.3ヘクタールと、令和5年以降、横ばいで推移している（図3）。

労働力不足の中で作付け規模の維持・拡大に対応するため、春の育苗や移植作業に要する労働力を大幅に削減できる直播栽培に取り組む地域が増加して

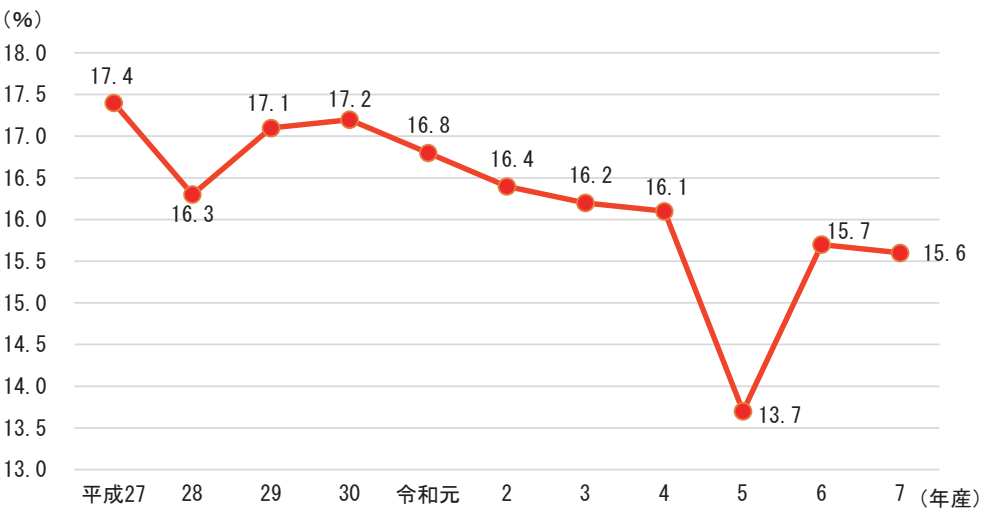
おり、令和7年産の直播栽培の面積は、前年より 7788ヘクタール（作付面積の57.9%、同7.6ポイント増）となった（図4）。

表2 地域別てん菜生産実績（令和7年産）

(総合) 振興局名	作付面積 (ha)			収量 (t/ha)	生産量 (t)	平均糖分 (%)	栽培農家 戸数 (戸)	戸当たり 面積 (ha/戸)
		うち直播	直播率					
空 知	569.13	539.11	94.7%	70.37	40,049.34	15.0	139	4.09
石 狩	943.88	810.21	85.8%	63.80	60,223.31	15.5	123	7.67
後 志	1,071.19	641.55	59.9%	58.28	62,427.34	16.0	203	5.28
胆 振	966.44	812.33	84.1%	54.21	52,386.31	15.4	180	5.37
日 高	17.12	13.32	77.8%	63.27	1,083.18	14.7	3	5.71
渡 島	76.01	54.31	71.5%	38.64	2,937.05	13.5	16	4.75
檜 山	205.47	110.04	53.6%	38.78	7,967.63	15.6	31	6.63
上 川	2,882.36	2,268.01	78.7%	65.07	187,552.24	15.1	503	5.73
留 萌	120.05	120.05	100.0%	55.05	6,609.27	16.0	19	6.32
宗 谷	—	—	—	—	—	—	—	—
オホーツク	19,462.05	7,585.91	39.0%	67.15	1,306,821.98	15.8	2,041	9.54
十 勝	21,317.57	14,822.08	69.5%	67.77	1,444,673.42	15.4	2,516	8.47
釧 路	252.20	1.17	0.5%	66.42	16,750.40	15.3	14	18.01
根 室	82.02	10.08	12.3%	62.81	5,151.51	17.3	9	9.11
合 計	47,965.49	27,788.17	57.9%	66.60	3,194,632.98	15.6	5,797	8.27

資料：北海道農政部調べ

図2 根中糖分の推移（平成27年産以降）



資料：北海道農政部調べ

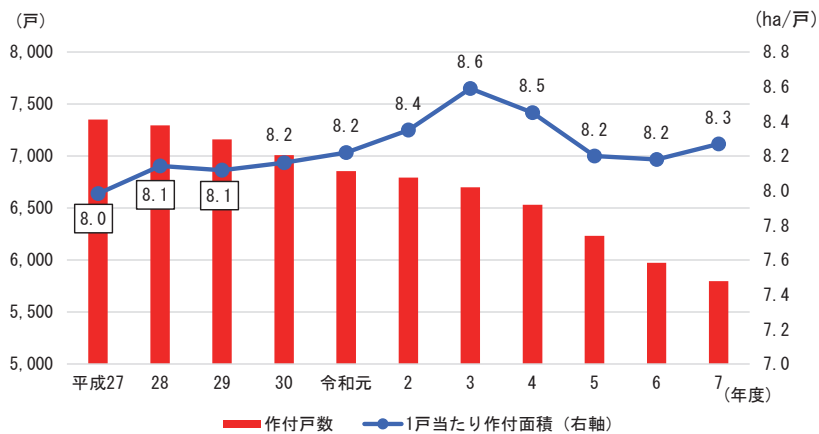
表3 品種別作付面積（令和7年産）

（単位：ha、％）

品種名	優良品種認定（年）	作付面積	割合
カーベ2K314	平成28	11,790	24.6
パピリカ	平成22	9,623	20.1
プロテウス	令和5	8,836	18.4
ボヌール	令和2	6,177	12.9
カーベ8K839K	令和5	4,190	8.7
ライエン	平成29	3,016	6.3
バラトン	令和2	1,762	3.7
カーベ8K860	令和3	1,388	2.9
カーベ8K879C	令和4	1,003	2.1
カチホマレ	平成30	179	0.4
ソラーレ	令和4	3	0.01

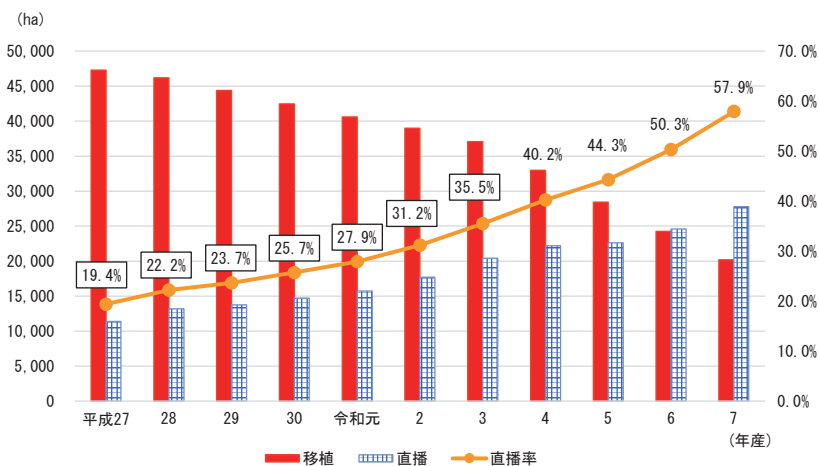
資料：北海道農政部調べ

図3 てん菜の作付戸数および1戸当たり作付面積の推移



資料：北海道農政部調べ

図4 移植および直播栽培面積の推移



資料：北海道農政部調べ

3 てん菜糖の生産状況

北海道内の製糖工場は、令和5年3月に北海道糖業株式会社本別製糖所が製糖を終了し、現在、3社7工場で操業している。なお、本別製糖所は製糖終了後、本別事業所としててん菜の買い入れを継続し、

近隣の2工場で製糖されている。

令和7年産原料処理量は319万4633トンで、歩留まりは15.4%（前年比0.1ポイント減）となり、てん菜糖生産量は49万907トン（同9.1%減）となった（表4）。

表4 てん菜糖の生産実績（令和7年産）

糖業社名 工場等名		原料処理量 (t)	砂糖生産量 (t)	うち原料糖 (t)	歩留 (%)	ビートパルプ 生産量 (t)	歩留 (%)	截断		延べ日数 (日)	製糖		製糖 延べ日数 (日)
								開始日	終了日		開始日	終了日	
日 甜	芽 室	1,130,899.58	171,826.18	20,142.84	15.19	42,349.70	3.74	10月4日	2月16日	136	10月4日	5月4日	213
	美 幌	326,019.02	49,300.00	35,799.99	15.12	13,483.16	4.14	10月4日	1月14日	103	10月4日	1月15日	104
	士 別	219,759.25	33,051.70	97.50	15.04	8,833.44	4.02	10月5日	12月22日	79	10月5日	12月23日	80
	小 計	1,676,677.85	254,177.88	56,040.33	15.16	64,666.30	3.86						
	日甜計(受託製造を除く)	1,479,663.80	224,188.38	56,040.33	15.15	57,149.94	3.86						
ホ ク レ ン	中斜里	785,574.58	126,010.01	41,548.98	16.04	36,448.84	4.64	10月11日	3月10日	151	10月11日	3月15日	156
	清 水	286,690.35	41,600.01	792.00	14.51	14,646.12	5.11	10月15日	2月6日	115	10月15日	2月6日	115
	ホクレン計	1,072,264.93	167,610.02	42,340.98	15.63	51,094.96	4.77						
北 糖	北 見	258,665.38	40,046.94	0.00	15.48	12,754.00	4.93	10月10日	1月16日	98	10月10日	1月17日	100
	道 南	187,024.82	29,072.17	2,925.00	15.54	8,459.36	4.52	10月13日	12月26日	74	10月13日	1月5日	84
	(参考)本別事業所	(238,549.14)	(36,420.02)	(0.00)	(15.27)	(9,564.33)	(4.01)						
	北見転出分	(41,535.09)	(6,430.52)	(0.00)	(15.48)	(2,047.97)	(4.93)						
	芽室転出(委託)分	(197,014.05)	(29,989.50)	(0.00)	(15.22)	(7,516.36)	(3.82)						
	小 計	445,690.20	69,119.11	2,925.00	15.51	21,213.36	4.76						
	北糖計(委託製造を含む)	642,704.25	99,108.61	2,925.00	15.42	28,729.72	4.47						
合 計		3,194,632.98	490,907.01	101,306.31	15.37	136,974.62	4.29						

資料：北海道農政部調べ

注：北海道には製糖工場を運営する三つの会社・団体、すなわち、日本甜菜製糖株式会社（日甜）、ホクレン農業協同組合連合会（ホクレン）、北海道糖業株式会社（北糖）がある。

おわりに

令和7年産のてん菜については、10アール当たり収量はおおむね平年並みであったものの、作付面積の減少や低糖分傾向などの影響により、生産量、産糖量ともに前年を下回る結果となった。令和7年は、道内の7月の平均気温が観測史上最高を記録するなど、夏場の高温がてん菜生産に影響を及ぼしており、温暖化を前提とした対策が必要となっている。

てん菜は、小麦や豆類、ばれいしょとともに、北

海道の畑作農業における基幹作物であり、てん菜を原料とする製糖工場は、地域経済や雇用を支える上で重要な役割を果たしている。今後とも、てん菜を安定的に生産していくためには、関係者が連携し、直播栽培の拡大に向けた機械の導入や、基幹作業の共同化など省力・低コスト生産を進めるほか、気候変動に対応した品種の開発や選抜、技術の普及、さらには、砂糖の需要拡大などに取り組んでいくことが重要である。